



～未来をつくる子どもたちの豊かな心をはぐくむために～

道德のとびら

みなさんは、どう考えますか？

元さんは、動物園で長年働く入園係です。定年が近づいた頃、奥さんを亡くして落ち込んでいた元さんでしたが、日頃のまじめな働きを認められ、定年後も同じ動物園で臨時職員として勤務できるようになりました。

定年が近づいた春休み、小学校3年生ぐらいの姉と3、4才ぐらいの弟が毎日のようにやってきて園内をのぞいていました。そんなある日、入園終了時間の4時を過ぎたところに弟の手をひいた姉が元さんのもとにやってきて、「弟の誕生日だから入園させてほしい…」と入園料を差し出してきました。元さんは迷いました。

元さんは二人の思いに応えたいと考え、例外として二人を入園させました。ところが、閉園時間になっても姉弟は帰って来ません。動物園が大騒ぎになり、みんなで二人を探したところ、園内の小さな池で遊んでいました。

数日後、元さんに次の2通の手紙が届きました。

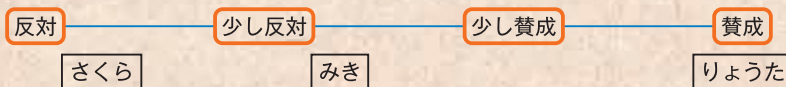
- 姉弟の母親から動物園に入園させていただき、弟の誕生日に特別に入園させてもらった感謝のお手紙
- 動物園から閉園後、無断で二人を入園させたことに対する懲戒（ちょうかい）処分のお手紙



この後、元さんは、二通の手紙を見比べ、晴れ晴れとした表情で身の回りを片付け、動物園を去っていったのです。

※懲戒（ちょうかい）処分は、罰則（ばっそく）の意味をもつ処分
※「二通の手紙」「私たちの道德 中学校」（文部科学省）を基に作成

元さんが、姉弟を入園させたことについてあなたはどのように考えますか？



【心のものさし】黒板に上のような直線を書き、そこに子どものネームプレートを貼らせ、意見交流に生かす手法です。自分と友だちの考えの類似や相違を比較したり、変容を見たりすることができます。

元さんのこの行動をどう思うかな。「心のものさし」で自分の考えに近いところに名前を書いて、みんなで、なぜそう考えたのか話し合ってみましょう。

先生
りょうたさん
さくらさん
みきさん

ぼくは、賛成です。だって姉弟の母親の手紙にもありますが弟の誕生日だったし、母親も姉も弟もすごく喜んでくれているから元さんは正しいことをしたと思います。

わたしは、反対です。私だったらきまりを破ってしまえば、不安になってしまいます。また、自分が定年後も続けて働くはずの動物園で働くことができなくなってしまったからです。

わたしは、さくらさんとりょうたさんのどちらの意見もわかりますが、少し反対です。姉弟にとってはよかったけれど、やはり特別扱いはルールを破ることになるからやはりよくないような気がします。

あなたはどの考えに近いですか？それはなぜですか？話し合ってみましょう。



～学校ではこんな道德科の授業を目指しています～

道德の授業では、物事を一面的にとらえるのではなく、一人一人が自分のこととして考え、様々な意見を引き出し、級友と話し合うことで、様々な側面や立場から広く深く考えていくことを目指しています。上の話し合いのように、学校では「心のものさし」を使うなど、自分の考えだけでなく、友だちはどう考えているのかを知り、それぞれの立場について友達と話し合うよう工夫しています。



見て、読んで、感じて、みんなの思い、考えを!!

～写真のエピソード紹介～



「だれもが平等な社会づくりめざして」

県立安達高等学校

本校では、ESD教育（持続可能な開発のための教育）の一環として、SDGs（「ジェンダー平等を実現しよう」などの17の持続可能な開発目標）について、生徒の主体性や協調性を大切にしながら、課題解決学習に取り組んでいます。

学びの成果を発表する公開ESD発表会において、写真のグループは、LGBT（レズビアン（L）、ゲイ（G）、バイセクシャル（B）、トランスジェンダー（T）の略称）の方々に、SNSを活用したインタビューを行ったことを基に発表しました。この学習を通して、生徒は、これからの社会において、LGBTの方々を理解しようという姿勢を持ち続け、相手のことを思いやる行動をする必要性を強く訴えかけていました。学びに、道徳が深く関係していると感じた瞬間でした。



道徳科授業「仕事への向き合い方」を行って

いわき市立湯本第二中学校

授業を行った教員は「仕事における『やさしさ』とは何か」と生徒に問いかけ、生徒は熱心に考えていました。生徒からは「道具に対して感謝を持つ」「他者への気遣いや配慮をする」などの発言がありました。この授業後に実施した職場体験学習においても、「やさしさ」とはどんなことか考えて、「笑顔、相手を思いやる心」など、道徳科の授業で考えたことを基に発言する生徒の姿が見られました。

本校の教育目標は「人を愛し、夢に向かって努力する生徒」です。人を愛し、社会生活の中で他人と関わっていく力を道徳科の授業を要として育成していきたいと考え、全職員一丸となって指導にあたっています。



「赤ちゃんふれあい体験学習」

天栄村立天栄中学校

岩瀬郡天栄村住民福祉課では、地域と学校の連携を深めるための一助として、定期乳児検診を生徒の夏季休業期間に行い、その中で「赤ちゃんふれあい体験学習」を企画しています。毎年、天栄中学校3年生は、「学びのフィールド」を地域に移して、保健師の皆様のご指導のもと、赤ちゃんや母親とふれあっています。生徒は、道徳科や家庭科等で学んだ、「命の尊さ」や「家族愛」、「保育」等について、自身の学びを深めています。参加した生徒は、「これまで以上に幼い命を慈しむ気持ちが強くなった。」と話しています。



「『生徒が先生』体験学習」

南相馬市立原町第三小学校

原町第三小学校の6年生は、相馬農業高校生を「先生」として迎え、パン作りを行いました。体験学習では「材料を1グラムも無駄にしないようにして作る姿勢を見習いたい。」など、児童は高校生のやさしさに触れながら、たくさんのお話を聞いていました。

「先生」を務めた高校生は、毎年の交流を楽しみにしており、教えることを通じて自分たちの技術が向上していく手応えを感じているそうです。

両校は「郷土芸能」でもつながりがあり、小学校としては、同じ地域の異校種での交流を継続し、地域理解や貢献を一層深めていきたいと考えています。

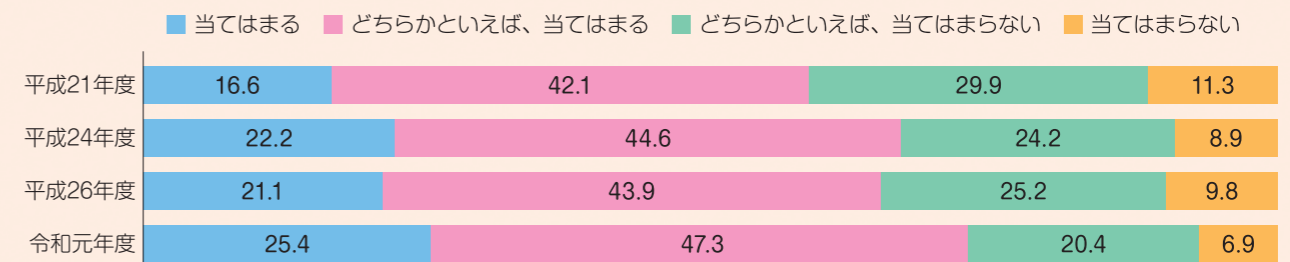
自分にはこういうよいところがある!

～子どもたちの自己肯定感を育むために手を携えて～

令和元年度全国学力・学習状況調査*注において実施された意識調査の結果が8月に公表されました。設問の中には、「自分にはよいところがありますか。」という自己肯定感に関わるものもありました。ここでは、福島の子供たちの10年間の歩みを見つめるため、平成21年度から令和元年度までの間の中学校3年生の結果をお示しします。

*注：小学校6学年、中学校3学年において実施

(中学校3年生対象) 自分にはよいところがありますか。



毎年、調査の対象となる子どもたちが変わる調査ですので、単純な比較はできませんが、福島の子供たちの自己肯定感の高まりを感じさせる結果となっています。東日本大震災及び原子力発電所事故という、つらく苦しい経験等を糧にしながら、福島の子供たちが着実に成長している証なのではないでしょうか。

公立の小・中学校では、子どもたちの自己肯定感を高め、個性の伸長を図ることをねらいとして、道徳科の授業が行われています。ここでは、今年度、南会津地区の道徳教育推進校である南会津町立田島小学校第2学年において、渡部小百合教諭が行った道徳科の授業「自分にもあるよさ」を紹介します。

令和元年度道徳教育推進校

「南会津町立田島小学校第2学年の実践『自分にもあるよさ』」

〈本時のねらい〉

友だちのよさを伝え合う活動をととして、自分のよさを見つけ、さらに伸ばそうとする心情を育てる。



【子どもたちの思いや願い】

「じぶんのよさはなに？」といわれても、じぶんではよくわかりませんでした。でも、友だちから「足のはやいところがすごい」とおしえてもらいました。そして、お家の人から手がみをもらいました。「いつもお兄さんとして、おとうとやいもうとのおせわをしてくれるところ、やさしいところがすてきだよ」とかいてありました。なんとなくはずかしかったけど、うれしかったです。

【お家の方の思いや願い】

いつも気ぜわしくて、なかなか息子に「あなたの〇〇がすてきよ」という伝える機会はありませんでした。家族の役割として、悪いことをしたら、しかることは大切だと思いますが、それ以上に、「よいことはよいこと」としっかりと伝えてあげることが大切だということ、学校から帰ってきて、道徳の授業について話す息子の姿を見て、強く思いました。



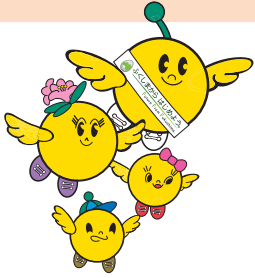
【担任の先生の思いや願い】

子どもたちに自分のよさを強く感じてほしい、と常日頃願っています。授業では、グループの友だち同士でお互いのよさをシートに書き、伝え合う活動を行いました。「家族からのお手紙もあるよ」と紹介すると、「え～」と驚きの声を上げながら、大切に読む子どもたちの姿。「自分は大切にされている」と感じてくれたと思います。保護者の方の協力があったからこそ、授業が充実しました。

授業はもちろん、日常生活のどこかで、「あなたの〇〇がすてきよ」と伝えてあげることが、子どもたちの自己肯定感を育むことにつながります。そのような機会を学校、家庭、地域で意図的につくってあげることが大切です。

「特別の教科 道徳」Q&A

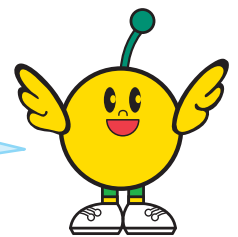
～「特別の教科 道徳」について、みなさんに知っていただきたいこと～



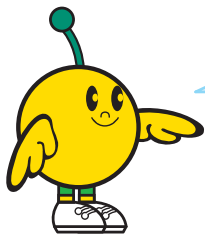
今年度4月から中学校でも「特別の教科 道徳」の授業がスタートしたようだ。小学校では、昨年度からスタートしているね。これまで行われてきた授業と何が違うのかな。キビタンに分かりやすく教えてもらいましょう。

Q 教科書が配布されましたが、どのような授業が行われているのですか？

小学校では昨年度から、中学校では今年度4月から、お子さんのお手元に教科書が届いていることと思います。教科書には、童話、昔話、歴史上の偉人はもちろん、現在のスポーツ選手等のエピソード等、お子さんの年齢に合った読み物やコラム等が掲載され、子どもたちに道徳的な問題を投げかけ、自分の考えをまとめたり、みんなで対話したりできるような仕組みとなっています。是非一度、お子さんの教科書を御覧ください。



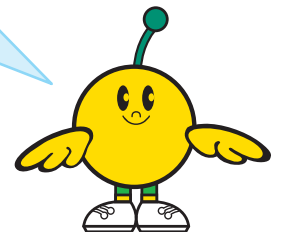
Q 通知票に評価が記載されるそうですが、どのような評価を行うのですか？



例えば、「A、B、C」や「3、2、1」、「思いやりの心が育っている（育っていない）」といった序列をつけたり、差別化したりする評価は行いません。授業の中で、お子さんが、自分の事として考えたり、友達の考えを受けて発言したり、書いたりするなど、授業におけるお子さんのがんばりやよい点、成長した点等を積極的に評価していきます。キーワードは「お子さんのよさや可能性を認め、励ます評価」です。

Q 「ふくしま」ならではの道徳科の取組について教えてください。

東日本大震災及び原子力発電所事故という、つらく、悲しい経験をした本県だからこそ、人としての絆や思いやり、郷土への誇りを大切にして、前向きにたくましく生きてほしい、という思いを込め、震災時に各地域で起こったエピソードを盛り込んだ「ふくしま道徳教育資料集Ⅰ～Ⅲ集」を作成し、授業で計画的に活用しています。福島県教育委員会のホームページにも掲載されていますので、是非、親子で御覧になってください。 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>



「特別の教科 道徳」は「よりよく生きるための道徳性を養う」ことを目標にしています。子どもたちにとっては、自分自身のこれからの生き方について学ぶ大切な時間となります。学校では、「特別の教科 道徳」について積極的に情報公開し、お子さんの学びの様子を伝えていきます。保護者のみなさんも、「特別の教科 道徳」に関心を持ち、お子さんがどのような学習をしているかご家庭でも話題にしてみてください。